

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
1 玉城町	対談項目1 小学校教育における専門性の向上について	<p>玉城町はありがたいことに珍しく人口が減少しない状況であります。いずれは減少していきます。玉城町の良さを将来にわたって持続していくために、子育てや教育の充実が必要です。</p> <p>玉城町は、県の「英語コミュニケーション力向上事業」の指定を受け、3年目に入っています。授業参観をすると、子どもたちが非常に楽しく学んでおり、ALTの先生から正確な発音を学びながら、歌やダンス、クイズなど工夫した資料も使われています。</p> <p>理科については、中学校で理科を教えていた先生で、出産に伴い退職された方がいると聞いたので、今年4月から小学校で理科を教えてもらうようお願いしました。子どもたちは非常に楽しんで学んでおり、担任の仕事の負担も軽減され、専門の講師の様子を見て、担任の先生も勉強ができ、学習への深化が図られる、という現状があります。</p> <p>玉城町には大企業が立地しているので、将来これらの企業に勤めたいという子どももいますし、それを期待している保護者もいます。企業からは、ものづくりに興味のあるような子どもを育ててほしいという声もあります。</p> <p>小学校の先生はオールマイティーでなければなりません。専門性の高い先生が補助することで、学習への理解がさらに深まります。今後、音楽や図工などへも専門性の高い先生の導入が有効と考えています。</p> <p>子どもたちが、「勉強が楽しい」、「学校が楽しい」ということになれば元気が出てきます。子どもたちが元気でいきいきと過ごせるように、学校教育に取り組みたいので、知事のご見解を賜りたいと思います。</p>	<p>玉城町においては、県の「英語コミュニケーション力向上事業」の指定地域として先進的な取組をさせていただいています。今年度からは玉城町、津市、鈴鹿市などそれぞれの良い取組を紹介する、モデル校協議会もスタートしています。</p> <p>具体的には、ストーリースターと言って、例えばサミットというテーマを与えて、それをチームで英語でコミュニケーションしながら、レゴブロックで作っていき、どういう理由でそれを作ったかを、皆に英語でPRします。こういう取組を小学生から行っています。</p> <p>こういった取組を進めていくにあたって、小学校教育における専門性の向上は、非常に重要なものだと考えています。子どもたちがわかる楽しさを感じてもらうために、理科や英語や文化活動など地域で活躍されている方が、学校と連携して取組に参画していただくのは大変良いことだと思いますので、ぜひこれからも進めていただき、我々も協力していきたいと思っています。</p> <p>また、先生本人の専門性を高めることも重要なので、県ではその部分の研修に力を入れています。英語に関しては、「英語教育推進研修」や「小学校教師のための英語力アップ研修」などのべ19講座を実施しています。玉城町からは平成27年度に1名、文部科学省が実施する「英語教育推進リーダー中央研修」へ参加しており、今年度は県が実施する「英語教育推進研修」の講師を務めています。</p> <p>理科については、理数教育の中核的役割を担う小中学校教員であるコア・サイエンス・ティーチャー(CST)の養成を目的として、平成24年度から三重大学と共同で「コア・サイエンス・ティーチャー養成拠点構築事業」を実施しています。これまでに小学校では11市町、20名がCST認定教員として活動しています。CST認定教員は、県総合教育センターで「授業づくり小学校理科」や「小学校理科基礎実験研修」等の研修講座、子どもと保護者が参加する「ふれあい科学教室」などの講師を務めており、地域の理科教育の推進を図る先頭に立っています。</p> <p>8月21日から、国際地学オリンピックが三重県で開催されています。地学オリンピックは7つある科学オリンピックの一つであり、今回で10回目、日本で開催されるのは初めてのことです。26か国、百数十名の中高生の子供たちが来て、地学の筆記試験や実技研修、国を越えたチーム討論などを行っています。この地学オリンピックをどう活かすのか、県で今考えているので、理科教育をさらに進めていきます。</p> <p>玉城町をはじめとして、三重県はものづくりの発展した地域です。理科や科学に興味を持つ子どもたちが増えることは、地域での働く場を活性化していきます。企業を誘致するときによく言われるのは、人材を確保できるかどうかです。人材の裾野が広がれば今後の企業誘致につながり、働く場が確保できれば、人口減少に歯止めをかけていく形になります。人材育成がまさに地方創生につながるよう、県としても取組にしっかり力を入れていきたいと思っています。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
2 玉城町	対談項目2 ポストサミットとしての地方創生の取組について	ポストサミットについて	<p>今回のサミットの成功は、地域の住民自身が、歴史や文化など自分たちの住む地域の良さを再認識することにつながりました。クリーンアップ活動や花いっぱい運動など、地域住民の一体感が高まり、心のレガシーを残してくれました。</p> <p>また、すごいやんかトークは平成27年度末で127回開催されていますが、すごいやんかトークはそれぞれの市町で活動されているNPOや団体のところに知事が直接来ていただくということで、活動されている方々が非常に元気が出る、自分たちの活動を見直す機会にもなり、大変良い取組を続けていただいています。</p> <p>自分たちの地域は自分たちで良くしていくのが基本ですが、現状は少子高齢化で非常に厳しいものがあります。地域のコミュニティが崩れてきており、自治会に加入してもらえない方もあります。自治会への加入は自由ですが、自治会に加入されない地域の方のつながりがなくなります。こういう中で、自助共助、防災などをどうしていけばいいのか、普段つながりがないのに、何か起きたときだけ助け合いましょう、という訳にもいきません。東南海地震が30年以内に80%の確率で起きるという話もある中で、何とかして地域のつながりを大事にする、そのために町も力を入れていくことが重要です。</p>	<p>サミットで上がった知名度を活かして、まず一つは「人と事業を呼び込む」ということで、MICEと言われますが、国際会議や展示会やインセンティブ旅行などを誘致したり、外国人観光客にたくさん来てもらうことに力を入れていこうとしています。</p> <p>昨年6月にサミットが決定して、その後7月から12月の外国人観光客数の対前年伸び率は、三重県が全国1位になりました。平成27年通年でも、全国2位になっています。今年の1月から5月でも、対前年伸び率は全国4位であり、外国人だけではなく日本人も含めた宿泊者数の対前年伸び率は同時期で全国1位です。サミットが終わってからも、賢島や伊勢などを中心に観光客が約3割増になっているところも多く、そういう方たちに三重県を周遊してもらおうと考えています。</p> <p>サミットでの食材については、玉城豚を始めとして、非常に注目を浴びました。少なくとも269品目の食材が使われているので、今後はそれらの販路を拡大して、食で売り込んでいこうと考えています。</p> <p>また、〇〇サミットなど、サミットのテーマと関係のあるような国際フォーラムをしていこうと考えています。</p> <p>大切なことは、心のレガシーのような形で、次世代の方たちに継承していくこと、サミットの経験が自分たちの将来を決める選択の一助になればと考えています。</p>
3 玉城町	対談項目2 ポストサミットとしての地方創生の取組について	地域運営組織について	<p>総務省では、地域運営組織の考え方を研究をする動きも出てきたようですが、知事のすごいやんかトークやサミットの成功モデルである地域の一体感、こういったことを大事にして自分たちの町を良くしていくことが、次の世代につながっていきます。これらのことについて知事のお考えをお聞きしたいと思います。</p>	<p>地域運営組織に関して、玉城町で先駆的に取り組んでいただいていることは、県の考え方も非常に合致しています。この4月からスタートしている「みえ県民力ビジョン」第二次行動計画には「新しい豊かさ」ということを基本的なコンセプトに掲げています。「新しい豊かさ」とは、まず心の豊かさ、次に経済的な豊かさ、そして新しく加えた、つながりの豊かさ、この3つの豊かさをすべて引き上げていこうとするものであります。</p> <p>つながりを深くしていくこと自体が豊かなことだ、幸せなことだ、大事なことだと改めて捉えて、3つの豊かさ全部を同時に引き上げていく取組をしようとしています。</p> <p>玉城町では先駆的な取組をしていただいているので、その取組の深化を「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」などの場を活用して情報共有させていただければと思います。特にひとり親家庭や生活困窮者世帯など、厳しい状況におかれている方たちに対して、よりアプローチをして、つながりを持っていくというのは大事なことだと思いますので、私どもも玉城町の取組を教えてもらいながら、全県に広がっていくように頑張っていきたいと思っています。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
4 玉城町	対談項目2 ポストサミットとしての地方創生の取組について	認知症サミットについて	<p>昨年のごいんかトークにも出席いただいた「認知症サポーターさくら」の取組など、地域包括ケアの考え方も出されている時代だけに、色々なところで行政と一緒に協働してまちづくりをしようと考えていますので、ご指導よろしく願いいたします。</p>	<p>玉城町は認知症の取組を積極的にいただいています。この10月に三重県で認知症サミットが開催されますが、国内外の認知症について研究している方に集まっていただいて、色々な取組を情報共有しようとするものです。</p> <p>2013年にイギリスのロック・アーンで行われたG7のサミットで、初めて首脳宣言に認知症の対策強化ということが盛り込まれました。翌2014年には日本で閣僚級の方々が集まって認知症サミットが開かれましたが、去年は認知症についての国際会議はありませんでした。今年はせっかく伊勢志摩サミットが開催され、今回首脳宣言にも認知症の対策強化ということが入っていますので三重県で開催しようと、閣僚級の方ではなく研究者や行政の方に国際的に集まっていただき、10月14日、15日に開催を予定しています。</p> <p>色々な町の取組や三重県の基礎自治体の皆様の取組など紹介させていただきたいと思っており、そこで得た情報を玉城町や市町の皆様にフィードバックさせていただいて、認知症の取組が前に進むようにしていきたいと考えていますので、ご協力をよろしく願いいたします。</p>